

授業改善推進プラン(学力調査等分析) 国語〔中学校第2～3学年〕

東大和市立第四中学校

学年等		項 目	内 容
平成 30 年度 第 2 学 年	平成 30 年 10 月	学習に関する 生徒の課題	・「言語」の正答率が都に比べ5.2ポイント低く、語彙や漢字に課題があることが分かる。「読む」の正答率が都に比べ5.5ポイント低いことも、語彙や漢字の力不足が内容を的確に理解できないことに関係していると考えられる。 ・取り出す力に関する結果が、都に比べマイナス5.3ポイントと最も差が大きかった。文章の構成や表現に即して読み、広い範囲から情報を抽出して活用する力に課題がある。
		具体的な授業 改善の方策	・漢字のテストを今後も継続する。家庭学習を充実させ、しっかり漢字練習をして漢字テストに向かう習慣をつける。 ・目標点に達しなかった生徒に対しては補習を行う。今後も朝読書の充実や読書活動の推進を継続して行い、生徒の語彙を増やすことに役立てる。 ・他の生徒と考えを交流する対話的な学習や、教え合いをしたりする学習を取り入れ、必要な情報や考えを取り入れ、自分の考えを広げたり深めたりする技能の習得を目指す。
	年度末	今年度の評価 と次年度に向 けての取組の 方向性	・定期テストでの漢字の正答率は上がってきていて、漢字学習に取り組む姿勢はよくなってきている。ビブリオバトルを実施できず、読書活動の推進ははかどらなかった。次年度には実施する予定。 ・文法の授業と漢文の読みでスチューデント・ティーチャー方式をとり、互いに教え合う中で学習内容の定着が図れた。ペアワーク等、複数で課題に取り組む機会を増やすことができ、対話的な学習が進んだ。
平成 31 年度 第 3 学 年	平成 31 年 10 月	学習に関する 生徒の課題	・2年生で課題であった「言語にについての知識・理解・技能」については、全国平均を2. 2ポイント上回ることができた。 ・「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを書く」問題の正答率が、全国平均に比べて3.9ポイント低く、無回答率も9.0%と最も高かった。 ・「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」問題の正答率が、全国平均に比べて4.2ポイント低かった。
		具体的な授業 改善の方策	・根拠をもって自分の考えをもち、それを文章化する学習を取り入れる。書かれた文章を周囲と交換し読み比べをする中で、内容や書き方の向上を図る。 ・本文中から問いの解答となる部分を探させる抽出問題に、積極的に取り組ませる。
	年度末	今年度の評価 と次年度に向 けての取組の 方向性	